

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：和歌山県 那智勝浦町

活動地域：那智勝浦町

活動におけるテーマ・キャッチコピー

自然を敬い生きる

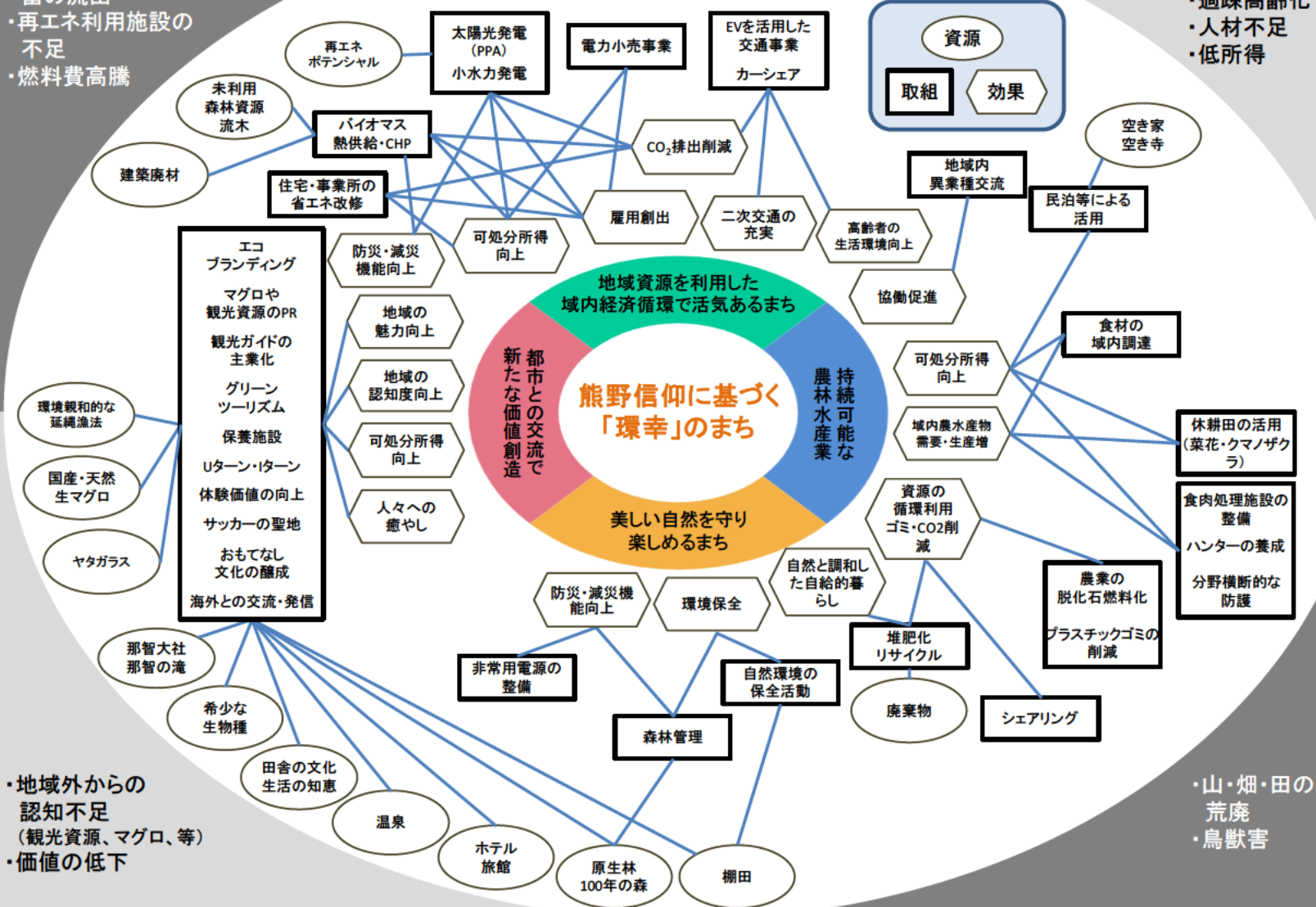
～観光のまちから「環幸」のまちへ～

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

那智勝浦町 地域循環共生圏ビジョン

- ・域外からのエネルギー購入による富の流出
- ・再エネ利用施設の不足
- ・燃料費高騰

- ・人口流出
- ・人口減少
- ・過疎高齢化
- ・人材不足
- ・低所得



- ・地域外からの認知不足 (観光資源、マグロ、等)
- ・価値の低下

- ・山・畑・田の荒廃
- ・鳥獣害

地域のビジョンを実現するための成果指標

熊野信仰に基づいた環境負荷の少ない暮らしで幸福な「環幸」のまち

短期目標

長期目標

環境

シュタットベルケによる再エネ計画数 10件

シュタットベルケによる再エネ事業規模
4000 k w

ジビエの処理施設数 1件

ジビエの年間生産量 100頭

経済

シュタットベルケ設立 1件

シュタットベルケの電気契約シェア 10%

社会

避難場所への非常用再エネ電源設置検討割合
20%

避難場所への非常用再エネ電源設置割合
100%

移住者数71人

移住者数206人

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	シュタットベルケ（新設）による電力小売事業	
	事業の概要	<p>新たにシュタットベルケを設立し、町内の公共施設や企業、家庭を対象として電力小売事業を実施する。また、将来的には、電力小売事業を通じて取得したデータを活用し、需要家に対して省エネサービスを提供することや、顧客とのネットワークを活用した地域サービス（見守り等）を展開することを目指す。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開始以降の新規顧客獲得 ・そのためどのようなサービスを提案できるか（価格以外の訴求力）
2	事業の名称	シュタットベルケによる再エネ電気・熱の地産地消事業	
	事業の概要	<p>以下の項目を中心とした再エネ事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオ熱供給 チップボイラーを町内のホテル・温浴施設等に導入。 ・太陽光発電 公共施設の屋根に発電設備をTPO方式で導入し、多くは自家消費して余剰はFIT売電。 ・小水力発電 県営ダムから取水する農業用水路等を利用して発電し、FITで全量売電。他にも河川から新規取水する地点開発も目指す。 	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオ熱供給 近隣のバイオマス発電所との原料チップの競合と既存チップ（建廃）の品質 ・小水力発電 流量・落差が大きい候補地が無いため高い事業性は見込みにくい。低落差・低出力に見合ったコストで設置できる機器を見つけることが必要。
3	事業の名称	鳥獣害対策	
	事業の概要	<p>深刻な農業被害をもたらす害獣（特にイノシシ・シカ）を捕獲しジビエ肉に加工・販売することで、農業被害を減らしつつ地域資源を有効活用する。販売先は主に地元の飲食店や旅館、土産物店で、生マグロに続く新たな売りによって町内における飲食の価値を向上させる。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲から加工所までの運搬が困難。山中で捕獲してから車道に運び出すのが重労働。 ・安定供給。ジビエ加工所への持込みを行う人数がある程度増えなければ、安定供給が難しい。 ・ジビエ肉を導入する地元店の確保

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- シュタットベルケにつながる事業者の巻き込みができた
- 地域住民が自発的に話し合うきっかけになった
- 調査を行うことで、町内の資源量や事業実態の把握ができ、町の産業への理解が進んだ

地域の活動の上での課題

- 優先順位の違うステークスホルダーどうしの目線合わせ

今後の意気込み

- R02年度末までにシュタットベルケを立ち上げる